

八重山諸島修学旅行を通じた ESD 探究活動

総合的な探究の時間を活用した全生徒参加による調査・研究活動の取り組み

余田光樹也／大岩咲／清水歩／田中晃太（兵庫県立北須磨高等学校）

1. 目的

(1) 八重山諸島修学旅行を通じて全生徒が探究課題を発見し、解決していくための資質・能力を養う。

(2) ユネスコスクールの特性を生かし全生徒が ESD 活動を推進できる学習環境を構築する。

2. 年間の流れ

(1) 一学期・夏季休業中

八重山諸島の特徴・魅力・課題についてグループ内で分担してレポート作成。

(2) 夏季休業明け

八重山諸島の特徴・魅力・課題について各自のレポートをもとにグループ内で 1 人 3 分の発表。現地で見たい項目、聞いてみたい項目等を検討する。

(3) 修学旅行中（1 1 月）

フィールドワーク、インタビュー、写真撮影等

(4) 修学旅行後

現地で感じた地域の特徴・魅力・課題、各自の体験した内容を整理、共有し、解決すべき課題（八重山諸島、私たちの住む地域、国、世界）を考える。

(5) 1 2 月・冬季休業中

解決策の検討。先行事例（他の地域での実践）等を調べ、解決策・提案を考える。

(6) 3 学期

プレゼンテーション作成・発表。クラス内（グループ別）発表会、代表生徒による発表会（1・2 年合同）を実施。

3. テーマ

テーマ別内訳（概数）は、地理・風土 5%、歴史 6%、文化 10%、生活・習慣 1%、自然環境 42%、自然動物 24%、社会問題 9%、その他 3% であった。優秀発表は以下の 7 テーマ。

- ・ 沖縄の伝統工芸品
- ・ 海洋ゴミ
- ・ 沖縄県と水
- ・ 沖縄の伝統衣装
- ・ 石垣島のゴミ
- ・ 八重山諸島の産業
- ・ シーグラスから考える海洋ゴミ

4. 結果

SDGs を念頭において探究活動を進めたことにより、「環境」「文化」に対する興味・関心を深めることができた。また、他者からのアドバイスに違う角度から見つめ直す必要性を学んだり、他者の発表を聞くことにより新たな発見をしたりすることができた。

同じテーマでもアプローチの仕方や、対策方法が異なり、お互いに刺激を与え合うことができた。

5. 現在

この探究活動は現在の 3 年次生が 1 年次の時から年次進行で導入されて 3 年目となっている。現在 3 年次生は昨年一年間の取り組みの経験をベースに、対象を地球規模に広げて、SDGs に掲げられた内容を参考に、「環境」「文化」を共通のテーマとして、様々なアプローチにより、調査・研究・発表を行なっている。

6. 今後の課題

本校にとっては探究活動を結び付けた修学旅行が初めての試みで、八重山諸島への訪問も初めてであった。

生徒のほとんどは八重山諸島の情報をネット検索から得ており、探究の深さが不十分な生徒もいた。例えばイリオモテヤマネコ、サンゴ礁等については理解しているが、それらが生息する環境の詳細や課題点にまで意識が及んでいないという発表が見受けられた。論文検索や文献調査等の深い研究が実施できるような体制を作っておく必要があると感じた。

ESD の取り組みに対して興味関心が高い生徒と低い生徒の温度差がかなりあるのも事実で、その差をいかになくしていくかということが大きな課題である。先日、西表島が世界自然遺産に指定されたことも追い風にして、この問題を克服していきたい。

3 年間の総合的な探究の時間を全て SDGs に関連付けて実施するためには、これからも試行錯誤の連続となるが、ホールスクールアプローチを実現するために努力していきたいと考えている。